

総括

—— 切る力・つなぐ力としての良心 ——

出会いの体験（物語）と良心

- ・ 新島はアメリカで conscience と出会い、それを「体験」した。
- ・ 新島は、抽象概念や狭い意味での道徳律として「良心」を求めたのではない。
- ・ 具体的な出会いの中で、良心の「語り」（narrative）を体得していく。



良心の継承

- ・ 「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」
（旧約聖書「イザヤ書」2章4節）
- ・ 「**一国の良心**」から「**世界の良心**」へ

（復習）現代における「良心」

- ・ 自分自身を深く振り返ることのできる「良心」（**内に向かう良心**）
- ・ 共同感覚としての「良心」（**外に向かう良心**）
- ・ 国家主導の「道徳教育」と一線を画する「良心教育」
（**良心の社会的次元**）
- ・ 地域・世代を超えた「共に知る」ことの実践（**良心の共同体**）

「良心」の哲学的・倫理的探求

- ・ 新島襄の影響を受けた哲学者
- ・ 大西 祝「良心起源論」、小坂国継『大西 祝選集 I（哲学篇）』岩波書店、2013年（岩波文庫）。
- ・ 良心の個人的次元と社会的次元
- ・ 良心ある国家は存在するのか？



現代における「良心」の展開

- ・ **切る力 (disjunctive power)** としての良心
 - ・ 「自治自立の人民」 (同志社大学設立の旨意)
 - ・ 「同志社は僥倖不羈 (てきとうふき) な学生を圧迫しないで、できるだけ彼らの本性に従って個性を伸ばし、天下の人物を養成すること」 (遺言)
- ・ **つなぐ力 (conjunctive power)** としての良心
 - ・ 「人ひとりは大切である」 (同志社創立10周年)
 - ・ 地方教育論 (1882年)